

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	21222001	研究期間	平成21年度～平成25年度
研究課題名	ユーラシアの近代と新しい世界史叙述	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	羽田 正（東京大学・東洋文化研究所・教授）

【平成24年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A- 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>国内、海外を問わず、活発に研究会やシンポジウムが開催され、研究組織として研究業績も十分に蓄積されていて、順調に研究が進展している。</p> <p>「世界はひとつ」という視点は特段、新しいものではないが、世界史叙説に具体的に应用することは大いに期待される。その期待が大きい分、全体的に研究課題に対して、何がどれだけ画期的に新しいのか、今後、具体的に証明してほしい。研究に対する熱意と努力は申し分ないが、もう少し課題に即した具体的な説明や研究成果がほしいところである。</p> <p>しかし、これまで順調に研究が進展しているので、今後の研究のさらなる進展によって、期待どおりの成果が見込まれると考えられる。</p>	

【平成26年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果で見込まれたとおりの研究成果が達成された。
A	<p>国外・国内の研究会やワークショップが極めて旺盛に開催されただけでなく、外国語によるものも含めて多数の著書や論文などの成果が産出された。もとより「新しい世界史」叙述として十分な凝集性を持ちえたかは多少疑念があり、個々の成果は従来型の個別研究としての性格が強く、全体としてそれらの集積にとどまったとの印象も拭い難い。だが、それらを束ねて一つの「新しい世界史」を構想し、多言語で発信しようとする研究代表者の努力は特筆に値する。</p>